

# 言葉の単位

## ① 文章

… いくつかの段落をもったまとまり

## ② 段落

… いくつかの文をもったまとまり  
—マス下がつている

## ③ 文

… 句点「。」や記号「?!」による区切り

## ④ 文節

… 意味がわかる程度に区切ったもの  
「ネ」「サ」「ヨ」で区切る

ある朝のことでした。  
歩き回って疲れてしまう。

## ⑤ 単語

… 文節をさらに区切った最小の区切り

※「て」と「た」は、**単語**

ある朝のことでした。  
歩き回って疲れてしまう。

問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①一日に一回は泣いてしまおう。②悲しくて泣く。こわくて泣く。うれしくて泣く。とにかく、毎日泣いている。

ある時、からすがなくのを見て、考えた。からすは「鳴く」が、「泣く」のではない。また、赤ちゃんは泣くのが仕事だと聞き、大人は泣かないことに気づく。

③泣きたい時に泣けるのは、子供の特権だ。大人になると人前で泣かない。だからこそ、「なく」という行為は、特別で人間らしい、素直な行為だと言えよう。そんな、忘れがちな大切なことを④この本で思い出すことができる。

問1 この文章は、いくつの段落からできているか。( ) 段落

問2 第一段落は、いくつの文からできているか。( ) 文

問3 傍線部①③を文節に区切りなさい。

- ① 一日に一回は泣いてしまおう。  
③ 泣きたい時に泣けるのは

問4 傍線部②④を単語に区切りなさい。

- ② 悲しくて泣く。  
④ この本で思い出すことができる

問 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。①メロスには政治がわからぬ。②メロスは、村の牧人である。③笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。

問1 ①②③を文節に区切りなさい。

- ① メロスには政治がわからぬ。
- ② メロスは、村の牧人である。
- ③ 笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。

問2 ①②③を単語に区切りなさい。

- ① メロスには政治がわからぬ。
- ② メロスは、村の牧人である。
- ③ 笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。

# 言葉の単位

①

…いくつかの段落をもったまとまり

②

…いくつかの文をもったまとまり

下がっている

③

…句点「」や記号「?!…」による区切り

④

…意味がわかる程度に区切ったもの

「」「サ」「」で区切る

歩き回って疲れてしまう。

⑤

…文節をさらに区切った最小の区切り

※「と」「は、単独

歩き回って疲れてしまう。

# 文の成分

## ①主語

…「**〜が**」「**〜は**」「**〜も**」「**〜こそ**」

私は いちご を 食べ ます。

## ②述語

… 文の **最後** にある ※倒置法に注意

私は いちご を 食 べ ます。

## ③修飾語

… 「どのように・どのくらい」

「どんな・なにを・どうする」など

**くわしく意味を説明する**

私は いちご を 食 べ ます。

## ※ポイント1

必ず、**文節に区切ってから探すこと**

私の 兄 は いちご を 食 べ ます。

## ※ポイント2

**主語は述語と照らし合わせて選ぶこと**

私は いちご が 大 好きです。

問1 次の文から、主語と述語を一文節ずつ抜き出さない。

① 鳥が空をゆつくりと舞う。

主語(

) 述語(

)

② 私の両親はきつすいの江戸っ子です。

主語(

) 述語(

)

③ ぼくたちは激しい雨の中をけんめいに走った。

主語(

) 述語(

)

④ 丘の上に白く小さなちょうがひらひらと飛ぶ。

主語(

) 述語(

)

⑤ 朝の光の中で彼の横顔がとてもりりしく見えた。

主語(

) 述語(

)

⑥ 彼こそ 実行委員長にふさわしい。

主語(

) 述語(

)

⑦ どこを探しても母の好物のあんパンがない。

主語(

) 述語(

)

## 問2 次の傍線が修飾する語を一文節抜き出しなさい。

① 鳥が空をゆつくりと舞う。

(

)

② 私の両親はきつすいの江戸っ子です。

(

)

③ ぼくたちは激しい雨の中をけんめいに走った。

(

)

④ 丘の上に白く小さなちょうがひらひらと飛ぶ。

(

)

⑤ 朝の光の中で彼の横顔がとてもりりしく見えた。

(

)

⑥ 彼こそ実行委員長にふさわしい。

(

)

⑦ どこを探しても母の好物のあんパンがない。

(

)

# 文の成分 まとめ

## ① 主語

…『『『『』』』』』

私はいちごを食べます。

## ② 述語

… 文の にある ※倒置法に注意

私はいちごを食べます。

## ③ 修飾語

… 「どのように・どのくらい」

「どんな・なにを・どうする」など

意味を説明する

私はいちごを食べます。

## ※ポイント1

必ず、文節に区切ってから探すこと

## ※ポイント2

主語は述語と照らし合わせて選ぶこと



# 文節相互の関係

## ① 主語・述語の関係

…「が」「は」「も」「こそ」  
私は いちごを 食べます。

## ② 修飾・被修飾の関係

… くわしく意味を説明する  
私は いちごを 食べます。

## ③ 接続・被接続の関係

… 文と文、文節と文節をつなぐ  
そして、私は いちごを 食べます。

## ④ 並立の関係

… 対等な関係、入れかえられる  
私は いちごと みかんを 食べます。

## ⑤ 補助の関係

… 「て」、補助的な意味を添える  
私は いちごを 食べて います。

## ⑥ 独立の関係

… 傍線が 一本だけ  
ああ、  
いちごは おいしいなあ。

※「こ」で差がつく

A	た	たい	て	こ	わ	す	↓
B	安	く	て	お	い	し	↓
C	し	ま	っ	て	お	く	↓

問1 次の傍線部の文節相互の関係をあとから選びなさい。

① 人間の考えなんて

② 彼はこう言った。

③ ちっぽけなものである。

④ しかし、本当にそうだろうか。

⑤ そう、君の言うとおりで。

⑥ 無限で果てしない可能性があるはずだ。

ア 主語・述語の関係

イ 修飾・被修飾の関係

ウ 接続・被接続の関係

エ 補助の関係

オ 並立の関係

カ 独立の関係

① ( )

② ( )

( )

③ ( )

( )

④ ( )

( )

⑤ ( )

( )

⑥ ( )

( )

# 文節相互の関係

## ① 主語・述語の関係

…「私は」  
「いちごを」  
「食べます」  
「。」

## ② 修飾・被修飾の関係

…  
私は いちごを 食べます。  
意味を説明する

## ③ 接続・被接続の関係

… 文と文、文節と文節を  
そして、私は いちごを 食べます。

## ④ 並立の関係

… 対等な関係、  
私は いちごと みかんを 食べます。  
られる

## ⑤ 補助の関係

… 「。」、補助的な意味を添える  
私は いちごを 食べて います。

## ⑥ 独立の関係

… 傍線が だけ  
ああ、いちごは おいしいなあ。

# 品詞の見分け(1)

品詞には、**動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・副詞・**

**連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞**の十一種類がある。

① **動詞** …… 活用のある自立語で、**ウ**段で終わる。

② **形容詞** …… 活用のある自立語で、**「い」**で終わる。

③ **形容動詞** …… 活用のある自立語で、**「だ」**で終わる。

この三つを( )と書く。 ≡ 活用のある言葉

※1 「自立語」とは、それだけで意味が通じるもので、  
文節に区切って、**直前が区切れる品詞のこと**

※2 「活用がある」「活用する」とは、**形が変わる品詞のこと**  
≡ 過去形になる

例 古い 本 を 売り たい そうだ

問 次から活用のある自立語(用言)を3つずつ探し、その品詞名を答えなさい。

① 青く<sup>a</sup>透明な<sup>b</sup>空<sup>c</sup>の<sup>d</sup>かなた<sup>e</sup>に<sup>f</sup>飛行機<sup>g</sup>が<sup>h</sup>見え<sup>i</sup>た<sup>j</sup>。

記号

品詞名

( ) ( ) ( ) ( )

( 詞 ) ( 詞 )

( )

( ) ( )

( 詞 )

② さわやかな<sup>a</sup>緑<sup>b</sup>の<sup>c</sup>中<sup>d</sup>で<sup>e</sup>楽しく<sup>f</sup>テニス<sup>g</sup>を<sup>h</sup>し<sup>i</sup>よう<sup>j</sup>。

記号

品詞名

( ) ( ) ( ) ( )

( 詞 ) ( 詞 )

( )

( ) ( )

( 詞 )

③ みんな<sup>a</sup>で<sup>b</sup>食べる<sup>c</sup>弁当<sup>d</sup>は<sup>e</sup>本当に<sup>f</sup>おいしい<sup>g</sup>なあ<sup>h</sup>。

記号

品詞名

( ) ( ) ( ) ( )

( 詞 ) ( 詞 )

( )

( ) ( )

( 詞 )

## 品詞の見分け(1) まとめ

品詞には ( ) 詞、( ) 詞、( ) 詞、

名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・  
助詞の 十一種類がある。

① ( ) 詞 … 活用のある自立語で、 ( )  
で終わる。

② ( ) 詞 … 活用のある自立語で、 ( )  
で終わる。

③ ( ) 詞 … 活用のある自立語で、 ( )  
で終わる。

この三つを ( ) 詞 という。 Ⅱ 活用のある言葉

※1 「自立語」とは、それだけで意味が通じるもので、  
文節に区切って ( ) 品詞のこと

※2 「活用がある」「活用する」とは ( )  
品詞のこと Ⅱ 過去形になる

## 品詞の見分け(2)

品詞には、動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・副詞・

連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞の十一種類がある。

※名詞・代名詞を( )という。

※体言とは( )品詞。

④ 名詞 … 活用のない自立語で、主語になる。

例 一人 日本 向こう 芥川龍之介

⑤ 代名詞 … 活用のない自立語で、主語になり、人や物を指し示す。

例 二こ それ 君 どこ 彼ら

※名詞 Ⅱ 「ものの名前」「人の名前」だけではない。

例 一月 二番目 三つ 流れ 動き 元氣

寒さ 楽しみ 痛み 大きさ

※「…さ」「…み」で終わる言葉は、( )詞。

問 次から体言を3つずつ探し、その記号を書きなさい。

① 青<sup>a</sup>い<sup>b</sup>太<sup>b</sup>平<sup>b</sup>洋<sup>c</sup>の<sup>d</sup>ど<sup>d</sup>こ<sup>e</sup>に<sup>f</sup>島<sup>g</sup>が<sup>h</sup>あ<sup>h</sup>る<sup>i</sup>の<sup>j</sup>が<sup>j</sup>。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

② 四<sup>a</sup>月<sup>b</sup>の<sup>b</sup>花<sup>c</sup>と<sup>d</sup>い<sup>e</sup>え<sup>f</sup>は<sup>f</sup>桜<sup>g</sup>で<sup>h</sup>あ<sup>i</sup>る<sup>i</sup>。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

③ 私<sup>a</sup>の<sup>b</sup>弟<sup>c</sup>は<sup>d</sup>ト<sup>e</sup>イ<sup>e</sup>ツ<sup>f</sup>に<sup>f</sup>赴<sup>g</sup>任<sup>g</sup>し<sup>h</sup>て<sup>h</sup>い<sup>i</sup>る<sup>i</sup>。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

④ 意<sup>a</sup>志<sup>b</sup>の<sup>b</sup>か<sup>c</sup>た<sup>c</sup>さ<sup>d</sup>だ<sup>d</sup>け<sup>e</sup>は<sup>e</sup>人<sup>f</sup>に<sup>g</sup>負<sup>h</sup>け<sup>h</sup>な<sup>i</sup>い<sup>i</sup>。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

⑤ 彼<sup>a</sup>の<sup>b</sup>最<sup>c</sup>大<sup>c</sup>の<sup>d</sup>長<sup>d</sup>所<sup>e</sup>は<sup>f</sup>明<sup>f</sup>る<sup>g</sup>い<sup>g</sup>性<sup>g</sup>格<sup>h</sup>で<sup>i</sup>あ<sup>i</sup>る<sup>i</sup>。

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )



## 品詞の見分け(2) まとめ

品詞には ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・

( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・ ( ) 詞・

感動詞・助動詞・助詞の十一種類がある。

④ ( ) 詞 : 活用のない自立語で、 ( )

になる。

例 一人 日本 向こう 芥川龍之介

⑤ ( ) 詞 : 活用のない自立語で、 ( )

になり、人や物を指し示す。

例 二二 それ 君 どこ 彼ら

※名詞とは、 ( ) 品詞。

※ 「寒さ」「楽しみ」「痛み」「大きさ」などのように  
「…さ」「…み」で終わる言葉は、 ( ) 詞。

## 品詞の見分け(3)

品詞には、**動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞**の十一種類がある。

⑥ **副詞** … 活用のない自立語で、主に**連用修飾語**になる。

A ぱくぱく食べる ゆつくり泳ぐ

B たくさん食べる 少し泳ぐ

とてもたくさん食べる

C けつしてうそはつかない

おそらく晴れるだろう

★なぜ … ★たとえ …

★もし … ★少しも …

★ぜひ … ★なぜなら …

⑦ **連体詞** … 活用のない自立語で、**連体修飾語**になる。

こんな わが この たいした とんだ ある

問 次から副詞と連体詞を1つずつ探し、記号を書きなさい。

① あ<sup>a</sup>の空<sup>b</sup>のず<sup>c</sup>と向<sup>d</sup>うう<sup>e</sup>にい<sup>f</sup>るの<sup>g</sup>です。

副詞 ( )                      連体詞 ( )

② と<sup>a</sup>ても寒<sup>b</sup>いあ<sup>c</sup>る冬<sup>d</sup>の日<sup>e</sup>のじ<sup>f</sup>つで<sup>g</sup>した<sup>h</sup>。

副詞 ( )                      連体詞 ( )

③ と<sup>a</sup>んだ災<sup>b</sup>難で<sup>c</sup>き<sup>d</sup>つと驚<sup>e</sup>いた<sup>f</sup>で<sup>g</sup>しよ<sup>h</sup>うね<sup>i</sup>。

副詞 ( )                      連体詞 ( )

④ な<sup>a</sup>ぜそ<sup>b</sup>んな豊<sup>c</sup>かな国<sup>d</sup>が滅<sup>e</sup>びた<sup>f</sup>の<sup>g</sup>か。

副詞 ( )                      連体詞 ( )

⑤ そ<sup>a</sup>うい<sup>b</sup>う小<sup>c</sup>さなこ<sup>d</sup>とが<sup>e</sup>大<sup>f</sup>切なの<sup>g</sup>だ<sup>h</sup>よ。

副詞 ( )                      連体詞 ( )

## 品詞の見分け(3)まとめ

品詞には、動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・

( 詞・ ) ( 詞・ ) ( 詞・ ) ( 詞・ )

( 詞・助動詞・助詞の十一種類がある。

⑥ 副詞 … 活用のない自立語で、主に連用修飾語になる。

例 ぱくぱく ゆっくり

たくさん とても

けっして おそらく

⑦ 連体詞 … 活用のない自立語で、連体修飾語になる。

例 こんな わが この たいした とんだ ある

※ 形の ( ) ( ) ( ) は 連体詞

## 品詞の見分け(4)

品詞には、**動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞**の十一種類がある。

◎自立語 … 動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・

副詞・連体詞・接続詞・感動詞

◎付属語 … 助動詞・助詞

◎活用する品詞 … 動詞・形容詞・形容動詞・助動詞

◎活用しない品詞 … 名詞・代名詞・副詞・連体詞・

接続詞・感動詞・助詞

## ◎その他

- ・形が変わらない「な・が・の・た・だ・る」は、連体詞
- ・「が」をつけて文が作れたら、名詞・代名詞

※ 文節に区切る ↓ 形が変わるかどうかわかる ↓ はたらき

## 品詞の見分け(4)

①私は、バスケットを②通してこれまでに③さまざまなことを学んできた。だから、高校④に入ってから、⑤その後も、バスケットに⑥ずっと関わっていき⑦たいと思っている。

⑧そして、将来は、時に⑨やさしく、時に厳しい指導者となつて、子供たちに⑩スポーツの楽しさを教えていきたいと思う。

問 傍線部の品詞名を、あとから一つずつ選びなさい。

ただし、同じ記号は選ばないものとする。

ク	エ	ア	⑩	⑦	④	①
接続詞	名詞	動詞	ー	ー	ー	ー
ケ	オ	イ	ー	ー	ー	ー
感動詞	代名詞	形容詞		⑧	⑤	②
				ー	ー	ー
コ	カ	ウ				
助動詞	副詞	形容動詞		ー	ー	ー
				⑨	⑥	③
				ー	ー	ー
サ	キ					
助詞	連体詞			ー	ー	ー

## 品詞の見分け(4)まとめ

品詞には、**動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・助詞**の十一種類がある。

◎(

)語…動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・

副詞・連体詞・接続詞・感動詞

◎(

)語…助動詞・助詞

◎(

)品詞…動詞・形容詞・形容動詞・助動詞

◎(

)品詞…名詞・代名詞・副詞・連体詞・

接続詞・感動詞・助詞

### ◎その他

・形が変わらない

」は、連体詞

・「」をつけて文が作れたら、名詞・代名詞

※文節に区切る ↓ 形が変わるかどうか ↓ はたらき

## 用言の活用(1) 形容詞・形容動詞

### ① 動詞

… 活用のある自立語で、**ウ**段で終わる

### ② 形容詞

… 活用のある自立語で、**「い」**で終わる

### ③ 形容動詞

… 活用のある自立語で、**「だ」**で終わる

活用形 … 未然形、連用形、終止形、連体形、仮定形、命令形

### ※見分け方

次の表を覚える

形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
形動	だろ	だっで	だ	な	なら	×
形	かる	かつく	い	い	けれ	×

例 小さい子どものいる家は、明るくにぎやかで、毎日楽しい。

### ※「い」の見分け方

↓ 「きれいだ」に置きかえてみる



問1 次の活用形をあとから選びなさい。

- ① すてきな服  
② うれしかった  
③ よければ  
④ おだやかでない  
⑤ おもしろい人  
⑥ おもしろい。  
⑦ 楽しくて  
⑧ 平和だろう  
⑨ 安全なら  
⑩ 最高だった

ア 未然形  
エ 連体形

- ① ( )  
④ ( )  
⑦ ( )  
⑩ ( )

イ 連用形  
オ 仮定形

- ② ( )  
⑤ ( )  
⑧ ( )

ウ 終止形  
カ 命令形

- ③ ( )  
⑥ ( )  
⑨ ( )

## 問2 次の活用形をあとから選びなさい。

「①激しい川も、いつかは②ゆるやかな流れに  
変わるのだと先生は言った。それが③真実なら、  
私は④絶対にあきらめたりしないだろう。」  
彼は⑤力強く言いながら、⑥重かろう荷物を  
背負い、⑦暗い部屋から⑧すばやく出ていった。

ア 未然形  
エ 連体形

イ 連用形  
オ 仮定形

ウ 終止形  
カ 命令形

⑦ ④ ①

（ （ （

（ （ （

⑧ ⑤ ②

（ （ （

（ （ （

⑥ ③

（ （

（ （

## 用言の活用(1) 形容詞・形容動詞まとめ

### ① 動詞

⋮

活用のある自立語で、

で終わる

### ② 形容詞

⋮

活用のある自立語で、「

」で終わる

### ③ 形容動詞

⋮

活用のある自立語で、「

」で終わる

活用形 ⋮

未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、命令形

### ※見分け方

次の表を覚える

形動	形				
	未然形	連用形	終止形	連体形	假定形

### ※「い」の見分け方

↓ 「

」に置きかえてみる

## 用言の活用(2) 動詞の活用1

動詞

…

活用のある自立語で、

ウ段で終わる

### 活用の種類

① 五段活用

「ない」を

↓

ア段

② 上一段活用

つけて

↓

イ段

③ 下一段活用

一字上が

↓

エ段

④ カ行変格活用

↓

「来る」のみ

⑤ サ行変格活用

↓

「する」「~する」のみ

ア  
イ  
ウ  
エ  
オ

※ 必ず、元の形(終止形)に直してから考える

例 もし 会えたら 会いたいですね、と 返事した。

問1 次の動詞の活用の種類をあとから選びなさい。

- ① 泳ぐ
- ② 受ける
- ③ 来る
- ④ できる
- ⑤ 生む
- ⑥ 生まれる
- ⑦ 見る
- ⑧ 運動する
- ⑨ 動く
- ⑩ 見える

(	(	(	(	(	(	(	(	(	(
)	)	)	)	)	)	)	)	)	)

ア 五段活用  
イ 上一段活用  
ウ 下一段活用  
エ 力行変格活用  
オ サ行変格活用

## 問2 次の動詞の活用の種類をあとから選りなさい。

「まず 一歩、①踏み出して ②みよう。

そう ③したら、きっと何か

④みえて ⑤くるはずだ。」

彼は、雷に ⑥打たれたような ⑦放心した

表情で、ただ 空を ⑧見つめて ⑨いた。

ア 五段活用

イ 上一段活用

ウ 下一段活用

エ 力行変格活用

オ サ行変格活用

- |   |   |   |
|---|---|---|
| ⑦ | ④ | ① |
| へ | へ | へ |
|   |   |   |
| ⑧ | ⑤ | ② |
| へ | へ | へ |
|   |   |   |
| ⑨ | ⑥ | ③ |
| へ | へ | へ |
|   |   |   |

# 用言の活用(2) 動詞の活用1 まとめ

## 動詞

…  
活用のある自立語で、  
**ウ段**で終わる

## 活用の種類

# ① 活用

「ない」を  
↓

**段**

## ② 段活用

つけて  
↓

**段**

### ③ 段活用

一字上が  
↓

**段**

## ④ 行変格活用



の  
み

## ⑤ 行変格活用



§

「のみ」

必ず、元の形（終止形）に直してから考える

※「ゝする」は、特に注意すること

## 用言の活用(3) 動詞の活用2

動詞

… 活用のある自立語で、ウ段で終わる

活用形

未然形、連用形、終止形、連体形、仮定形、命令形の  
六種類がある。

※見分け方

下につく語で見分ける

未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
ない	ます	。	とき	ば	。
う・よう	た・て		こと		

例 わからないことがあれば、どんどん質問してね。



問1 次の動詞の活用形をあとから選びなさい。

- ① 泳ぐとき  
② 受けます  
③ 来れば  
④ できる。  
⑤ 生んだ  
⑥ 生まれない  
⑦ 見て  
⑧ 運動しよう  
⑨ 動け。  
⑩ 見えた

ア 未然形  
エ 連体形

- ① ( )  
④ ( )  
⑦ ( )  
⑩ ( )

イ 連用形  
オ 仮定形

- ② ( )  
⑤ ( )  
⑧ ( )

ウ 終止形  
カ 命令形

- ③ ( )  
⑥ ( )  
⑨ ( )

## 問2 次の動詞の活用形をあとから選びなさい。

「まず 一歩、①踏み出して ②みよう。

そう ③すれば、 きっと何か

④みえる 時が ⑤くるよ。」

彼は、 ⑥疑うことも ⑦しないで

そのことばを心の中で ⑧くりかえした。

ア 未然形  
エ 連体形

イ 連用形  
オ 仮定形

ウ 終止形  
カ 命令形

⑦ ④ ①

（ （ （

（ （ （

⑧ ⑤ ②

（ （ （

（ （ （

⑥ ③

（ （

（ （

# 用言の活用(3) 動詞の活用2 まとめ

動詞

…

活用のある自立語で、

ウ段で終わる

活用形

未然形、連用形、終止形、連体形、仮定形、命令形の  
六種類がある。

※見分け方

につく語で見分ける

未然形

連用形

終止形

連体形

仮定形

命令形

# 体言

① 名詞 … 活用のない自立語で、**主語**になる。

② 代名詞 … 活用のない自立語で、**主語**になり、人や物を指し示す。

※体言とは、（

）**品詞**。

名詞は、**普通名詞・固有名詞・数詞・形式名詞**に分けられる。

（１）普通名詞 … 一般的なもの

（２）固有名詞 … 地名、人名など一つしかないもの

（３）数詞 … 数、量、順序など

（４）形式名詞 … それだけでは意味をもたないもの

A	ときと場合による	↓	（名詞
B	わかる <b>とき</b> がくる	↓	）名詞
C	そんな <b>こと</b> もある	↓	（名詞
D	<b>こと</b> の重大さに気づく	↓	）名詞

問 次から体言を3つずつ探し、その種類を次から選びなさい。

ア 普通名詞

イ 固有名詞

ウ 数詞

エ 形式名詞

オ 代名詞

① <sup>a</sup>青<sup>b</sup>い<sup>b</sup> <sup>b</sup>太<sup>c</sup>平<sup>c</sup>洋<sup>c</sup>の<sup>d</sup> <sup>d</sup>と<sup>e</sup>こ<sup>e</sup>に<sup>f</sup> <sup>f</sup>島<sup>g</sup> <sup>g</sup>が<sup>h</sup> <sup>h</sup>あ<sup>i</sup>る<sup>i</sup> <sup>i</sup>の<sup>j</sup> <sup>j</sup>か<sup>。</sup>

記号

名詞の種類

記号

名詞の種類

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

② <sup>a</sup>四<sup>b</sup>月<sup>b</sup>の<sup>c</sup> <sup>c</sup>花<sup>d</sup> <sup>d</sup>と<sup>e</sup> <sup>e</sup>い<sup>f</sup>え<sup>f</sup> <sup>f</sup>ば<sup>g</sup> <sup>g</sup>桜<sup>h</sup> <sup>h</sup>で<sup>i</sup> <sup>i</sup>あ<sup>。</sup>る<sup>。</sup>

記号

名詞の種類

記号

名詞の種類

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

③ <sup>a</sup>私<sup>b</sup>の<sup>c</sup> <sup>c</sup>弟<sup>d</sup> <sup>d</sup>は<sup>e</sup> <sup>e</sup>ト<sup>f</sup>イ<sup>f</sup>ツ<sup>f</sup> <sup>f</sup>に<sup>g</sup> <sup>g</sup>赴<sup>h</sup>任<sup>h</sup>し<sup>i</sup> <sup>i</sup>て<sup>j</sup> <sup>j</sup>い<sup>。</sup>る<sup>。</sup>

記号

名詞の種類

記号

名詞の種類

( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

## 体言 まとめ

品詞には **動詞・形容詞・形容動詞・**（**詞**・

**（****詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・助動詞・**

**助詞**の十一種類がある。

①（**詞**：活用のない自立語で、（

になる。

②（**詞**：活用のない自立語で、（  
になり、人や物を指し示す。

※体言とは、（  
（**品詞**。

（1）（**名詞**：一般的なもの

（2）（**名詞**：地名、人名など一つしかないもの

（3）（**詞**：数、量、順序など

（4）（**名詞**：それだけでは意味をもたないもの

# 副詞・連体詞

① 副詞 … 活用のない自立語で、主に連用修飾語になる。

A 状態の副詞  
ぱくぱく食べる      ゆっくり泳ぐ

B 程度の副詞  
たくさん食べる      少し泳ぐ

とてもたくさん食べる

C 呼応の副詞  
けっしてうそはつかない

おそらく晴れるだろう

★なぜ …      ★たとえ …

★もし …      ★少しも …

★ぜひ …      ★なぜなら …

② 連体詞 … 活用のない自立語で、連体修飾語になる。

こんな      わが      この      たいした      とんだ      ある

↓ 形の ( )      ( )      ( )      ( )      ( )

問 次から副詞と連体詞を1つずつ探し、記号を書きなさい。  
また、副詞はその種類をあとから選びなさい。

① あの空のすうと向うに いるの です。

副詞 (                      )                      ( 連体詞 ) (                      )

② とても寒い ある冬の日 の じつ でした。

副詞 (                      )                      ( 連体詞 ) (                      )

③ とんだ 災害で きつと 驚いた で しょう う ね。

副詞 (                      )                      ( 連体詞 ) (                      )

④ なぜ そんな 豊かな 国が 滅び た の か。

副詞 (                      )                      ( 連体詞 ) (                      )

⑤ そう いう 小さな こと が 大切な の だ よ。

副詞 (                      )                      ( 連体詞 ) (                      )

## 副詞の種類

ア 状態の副詞

イ 程度の副詞

ウ 呼応の副詞



## 副詞・連体詞 まとめ

品詞には **動詞・形容詞・形容動詞・名詞・代名詞・**  
**( ) 詞・( ) 詞・接続詞・感動詞・**  
**助動詞・助詞**の十一種類がある。

- ① **副詞** … 活用のない自立語で、  
主に**連用修飾語**になる。

A ( ) の副詞      ぱくぱく    ゆっくり    いきなり

B ( ) の副詞      たくさん    少し    とても

C ( ) の副詞      けっして    おそらく    なぜ

- ② **連体詞** … 活用のない自立語で、**連体修飾語**になる。

こんな    わが    この    たいした    とんだ    ある

↓ 形の ( ) ( ) ( )

# 助動詞 1

## 助動詞

… 活用のある付属語で、いろいろな意味を添える。

① 見分けのない助動詞

1 **せる・させる** …… 使役

弟に買い物に行かせる。

2 **ない** …… 打ち消し・否定

なぜかはわからない。

3 **ます** …… 丁寧

すぐに持って行きます。

4 **たい・たがる** …… 希望

知りたいことがたくさんある。

5 **らしい** …… 推定

明日は雪が降るらしい。

6 **だ** …… 断定

彼の住まいは東京都だ。

# 助動詞1

問 次の傍線部の助動詞の意味をあとから一つずつ選び、記号を書きなさい。

いくらかわいい子供でも、食べ<sup>①</sup>たいものしか  
食べ<sup>②</sup>させ<sup>③</sup>ないというのは、良くないこと<sup>④</sup>だと  
私は思<sup>⑤</sup>います。

- |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|
| ① | ( | ( | ( | ( |
| ② | ( | ( | ( | ( |
| ③ | ( | ( | ( | ( |
| ④ | ( | ( | ( | ( |
| ⑤ | ( | ( | ( | ( |

## 助動詞の種類

- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| ア | 使役 | イ | 打消 | ウ | 丁寧 |
| エ | 希望 | オ | 推定 | カ | 断定 |

# 助動詞1

注意する助動詞

1

ない

なぜかは わからない。

↓

けっして 悪くはない。

↓

おさない 子供が いる。

↓

うらないを 信じる 人。

↓

2

らしい

明日は 雪が 降るらしい。

↓

彼女は いつも 愛らしい。

↓

3

だ

彼の 住まいは 東京だ。

↓

彼の 人がらは 誠実だ。

↓

彼は マイクで 叫んだ。

↓

## 助動詞1

問 次の傍線部のうち、あとの説明に合う記号を一つずつ選んで書きなさい。

おまじ<sup>A</sup>ないの大好きな、あのかawaii<sup>A</sup>らしい  
少女が事故にあった<sup>B</sup>らしいと私が知ったのは、  
三日後のこと<sup>A</sup>だ。幸いなことに、怪我はたいした  
ことも<sup>B</sup>ないし、入院もし<sup>C</sup>ないで済ん<sup>B</sup>だそうだ。

① 打消の助動詞「ない」

A おまじない

B たいしたこともない

( )

② 推定の助動詞「らしい」

A かわいらしい

B あったらしい

( )

③ 断定の助動詞「だ」

A 三日後のことだ

B 済んだそうだ

( )

## 助動詞2

### 助動詞

…

活用のある付属語で、いろいろな意味を添える。

### ② 見分けのある助動詞1

1

れる・られる

受身 〓

友達に笑われる。

可能 〓

納豆も食べられる。

自発 〓

健康が案じられる。

尊敬 〓

先輩が言われた言葉。

2

う・よう

意志 〓

明日は早起きしよう。

勧誘 〓

一緒に見に行こう。

推量 〓

明日は晴れるだろう。

3

た

過去 〓

昨日食べたごはん。

完了 〓

今到着した飛行機。

存続 〓

壁に張られた絵画。

## 助動詞2

### 助動詞

…

活用のある付属語で、いろいろな意味を添える。

### ② 見分けのある助動詞2

4

そうだ

伝聞 〓

明日は雪が降るそうだ。

様態 〓

明日は雪が降りそうだ。

5

ようだ

たとえ 〓

川のせせらぎのようだ。

推定 〓

外は雪が降るようだ。

例示 〓

菊池先生のような人。

A わたあめのような雲。

B わたあめのような菓子。

6

まい

打消意志 〓

もう二度と泣くまい。

打消推量 〓

まさか彼は泣くまい。

## 助動詞2

問 次の傍線部の助動詞の意味をあとから一つずつ選び、記号を書きなさい。

- ① 午後から、雨が降るそうだ。
- ② ゆっくり、寝られる。
- ③ 今日から、毎日勉強しようと思う。
- ④ 昨日作ったカレーを食べる。
- ⑤ 先輩方に、ひどくしかられる。
- ⑥ 雪がやんだようだ。

- |   |   |   |   |  |   |   |
|---|---|---|---|--|---|---|
| ① | ( | ② | ( |  | ③ | ( |
| ④ | ( | ⑤ | ( |  | ⑥ | ( |
|   |   |   |   |  |   |   |
|   |   |   |   |  |   |   |

ア	受身	イ	可能	ウ	自発	エ	尊敬
オ	たとえ	カ	推定	キ	例示	ク	伝聞
ケ	様態	コ	意志	サ	勧誘	シ	推量
ス	過去	セ	完了	ソ	存続		



## 助詞 1

助詞

…

活用のない付属語で、いろいろな意味を添える。

助詞の種類

### ① 格助詞

体言(名詞・代名詞)に付く

例

を・に・が・と・から・より・で

### ② 接続助詞

用言などに付き、前後をつなぐ

例

て・と・から・ので・のに・が

### ③ 副助詞

いろんな語に付き、意味を添える

例

ぐらい・さえ・だけ・は・も

### ④ 終助詞

終わりに付き、意味を添える

例

ね・さ・よ・か・なあ

例

八月の 太陽は、冷たい 気持ちさえ

と|か|し|て| し|ま|う 力|を| 持|つ|よ。

# 助詞1

問 次の傍線部の助詞の種類をあとから一つずつ選び、記号を書きなさい。

どんなに、子供<sup>①</sup>に気に入られたく<sup>②</sup>ても、  
食べたいもの<sup>③</sup>だけ食べさせること<sup>④</sup>は、  
良いこと<sup>⑤</sup>と言えるのでしよう<sup>⑥</sup>が。

## 助詞の種類

		④	（	⑤	（	①	（	②	（
ウ	副助詞								
ア	格助詞								
エ	終助詞								
イ	接続助詞								

## 助詞1

問 次の傍線部のうち、あとの説明に合う記号を一つずつ選んで書きなさい。

「外<sup>A</sup>で遊ん<sup>B</sup>でいてはだめ」と母<sup>C</sup>が言う<sup>D</sup>と、  
太郎<sup>E</sup>と次郎は、家<sup>F</sup>から出ませんでした。  
太郎はすぐに勉強を始めました<sup>G</sup>が、次郎<sup>H</sup>が  
あんまりうるさい<sup>I</sup>から、ちつともはかどりません。

① 格助詞の「で」 ( )

A 外<sup>で</sup> B 遊ん<sup>で</sup>いては

② 接続助詞の「が」 ( )

C 母<sup>が</sup> G 始めましたが H 次郎<sup>が</sup>

③ 格助詞の「と」 ( )

D 言う<sup>と</sup> E 太郎と次郎は

④ 接続助詞の「から」 ( )

F 家<sup>から</sup> I うるさい<sup>から</sup>

## 助詞 2

### 助詞

…

活用のない付属語で、いろいろな意味を添える。

狙われやすい助詞 1

### 1 の

主格

||

私の買った本。

連体格

||

私の本。

準体格

||

その本は私のだ。

疑問の終助

||

どんな本なの。

### 2

に

時を表す格助

三時に来てください。

場所を表す格助

教室に来てください。

対象を表す格助

私に話してください。

目的を表す格助

明日確かめに行こう。

### 3

で

原因・理由の格助

台風で延期となる。

方法・手段の格助

はさみで紙を切る。

材料・原料の格助

木でいすをつくる。

## 助詞2

狙われやすい助詞2

4

と

共同・相手の格助

昨日、兄と行った店。

結果の格助詞

ついに受験生となる。

順接の接続助詞

雨が降ると行けない。

5

ばかり

程度の副助詞

十日ばかり休む。

限定の副助詞

牛乳ばかり飲む。

完了の副助詞

飲んだばかりだ。

6

さえ

添加の副助詞

雨に加え、風さえ出てきた。

限定の副助詞

牛乳さえあればよい。

類推の副助詞

幼児でさえ読める。

7

か

疑問の終助詞

あれは何ですか。

反語の終助詞

こんな屈辱があるのか。

詠嘆の終助詞

なるほど、そうだったのか。

## 助詞2

問 次の傍線部のうち、あとの説明に合う記号を一つずつ選んで書きなさい。

ユウコ<sup>A</sup>が桜<sup>B</sup>の花<sup>C</sup>の咲く木に近づく<sup>D</sup>と、  
男の子<sup>E</sup>と女の子が、ベンチ<sup>F</sup>で横になっていた。  
近寄ってみた<sup>G</sup>が、二人とも、動く気配がない。  
それ<sup>H</sup>で、ユウコは、話しかけてみることにした。

① 格助詞の「が」

A ユウコが

G 近寄ってみたが

( ) ( )

② 主格の「の」

B 桜の花

C 花の咲く

( ) ( )

③ 順接の「と」

D 近づく

E 男の子と女の子

( ) ( )

④ 場所を表す格助詞の「で」

F ベンチで

I それで

( ) ( )

# 敬語

①

## 尊敬語

・ ・ ・ 動作主が

先生が お昼を めしあがる。

来賓の 方が いらつしやる。

②

## 謙譲語

・ ・ ・ 動作主が

掃除は 私が いたします。

姉が 申して おりました。

③

## 丁寧語

・ ・ ・ 主語が

雨は たくさん 降りますか。

席は こちらで ございます。

④

## 美化語

・ ・ ・ 「 「 「 +

お茶碗を 持って きなさい。

ご飯を よそって ください。

# 敬語

問 次の文から敬語表現を一箇所ずつみつけて傍線を引き、その敬語の種類をあとから選んで書きなさい。

- ① 必ず、十時までには参ります。（「ます」以外で）
- ② すばらしい景色を、どうぞご覧ください。
- ③ おいしいお菓子を、買ってきたよ。
- ④ 郵便局は、すぐそこです。
- ⑤ 演奏は、いつなさるのですか。（「です」以外で）
- ⑥ 現地まで、ご案内いたします。（「ます」以外で）
- ⑦ すべて、おっしゃる通りです。（「です」以外で）
- ⑧ しかと、承りました。（「まし」以外で）

## 敬語の種類

ア 尊敬語	イ 謙譲語	ウ 丁寧語	エ 美化語
① （ ）	② （ ）	③ （ ）	④ （ ）
⑤ （ ）	⑥ （ ）	⑦ （ ）	⑧ （ ）



# 敬語

問 次の文から敬語表現の誤りを一箇所ずつみつけて  
傍線を引き、正しく書き直しなさい。

- ① 母が、おっしゃっておいりました。
- ② 先生は、今、おりますか。
- ③ お橋を渡っていらしてください。
- ④ お茶を一杯、いただいでください。
- ⑤ すでに、拝見なさいましたか。
- ⑥ お母さんは、今、外出しております。

- ① (
- ② (
- ③ (
- ④ (
- ⑤ (
- ⑥ (

- )
- )
- )
- )
- )
- )

# 敬語

①

## 尊敬語

・ ・ ・ 動作主が相手。

先生が お昼を めしあがる。

来賓の 方が いらつしやる。

②

## 謙讓語

・ ・ ・ 動作主が自分、身内。

掃除は 私が いたします。

姉が 申して おりました。

③

## 丁寧語

・ ・ ・ 主語が三人称。

雨は たくさん 降りますか。

席は こちらで ございます。

④

## 美化語

・ ・ ・ 「お・ご」 + 名詞。

お茶碗を持ってきなさい。

ご飯をよそってください。